第180号　(発行　平成24年11月29日)

楽学（がくがく）ニュース

【編集・発行】
特定非営利活動法人
あだち学習支援ボランティア「楽学の会」
【 事 務 所 】　早坂　津夜子 方
〒120-0001 足立区大谷田3-1-15-203
ホームページ　http://gakugaku.main.jp/

平成２４年度あだち区民大学塾　　第３ステージ開催報告

声に出して読む 万葉集Ⅱ～巻　第１４、第９、第１６～

10/16･23･30（火）の３回、講師に元江北図書館長の石井清弘氏を迎え、パートⅡの講座が開催され、１回目は「東歌」２３首を、五七調でという講師の指導の下、後に続いて声を出して詠みました。

万葉人の自然への思いや夫婦や恋人の相聞歌、防人の歌が詠まれ、特に東国の人々の素朴で直裁な心が伝わってきました。２回目はもっと声を出して詠みたいという受講生の要望にこたえて、１回目の歌を２回ずつ声を出して詠むことから始まりました。続いて２５首を詠み、その中の複数の男性の求愛に困り、自殺をした葛飾（かづしか）の真間（まま）の手児名（てごな）や菟原処女（うなひをとめ）他４人の女性を詠った歌に心が痛みました。３回目は万葉集の中でも、多様性と知的な笑いの要素があるとされる、巻１６の内の３３首の雑歌を詠みました。講師の熱意あふれる講義に時間がとても足りないという受講生の声がありました。また、今年「古典の日」法が成立し、11 月 1 日に定められ、これからもますます古典を身近な存在にしたいと思いました。

（市川道子）

うんちく！　大江戸入門講座～名所篇

１０月２７日から毎週土曜日３回にわたり、講師には江戸研１級の大沢正明氏と堀口茉純氏（通称ホーリー）を迎えて実施した。

１回目は受講者３４名、大沢氏による講義「江戸庶民の楽しみ、盛り場と名所」両国と浅草界隈の説明は次第に熱を帯びて時間を忘れる程、受講生も話しに釣り込まれていた。

２回目は受講者３５名、和服に身を包んだ堀口講師の話「将軍ゆかりのスポットと日本橋界隈」。パワーポイントも使って大きな声での講義は判り易く、彼女の博学ぶりに感心している様子だった。

３回目は「大江戸日本橋界隈を歩く」現地学習、参加２４名。１班は堀口講師、２班は大沢講師が別になって説明に当たった。午後のひと時天気も良く江戸時代にタイムスリップ、全く往時の面影がないビル街を約２時間半疲れも見せず歩き通した。アンケート、一口メモには大満足の意見が多かった。

・まさに、うんちくてんこ盛りでもっと楽しみたいと思った。10 回位の講習会にして欲しい。
・街歩きの楽しさを充分に味わうことが出来た。次回も期待します。　（鹿島健一）

大沢講師

堀口講師

現地学習

今日の俳句の源流　江戸の俳諧

安藤義雄氏をお迎えして９月５日から３ヶ月６回にわたる講座は１１月２１日に最終日を迎え、無事終了した。長丁場の連続講座は今回が初めての試み。受講者が集まるか心配されたが、予想を超える申込があり、延べ２００名が受講した。

「連歌から俳句に至る文芸史」に始まり、俳聖と謳われた芭蕉の生涯を語り、奥の細道の解釈に詳細な説明、一茶の知られざる一面、大阪文化を追求した西鶴の多彩ぶりなど、時にユーモアを交え格調高い講座を展開した。

安藤氏は、芭蕉５１歳の絶句「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」を紹介し、晩年を６００里、命を賭した大仕事、１５０日という日時を旅に費やし、肉体と精神の極限を武器に攻め込んだ大阪の牙城を前に病気で亡くなった芭蕉の無念さを語り、そこに一種の悲壮な美学があるとして最後を熱っぽく締めた。

終始熱心に聴いていた受講者からのアンケートにも大変満足という意見が多かった。　　（鹿島健一）

白洲正子と次郎　その生涯～縁の武相荘を訪ねる～

11 月 10 日・17 日・24 日（土）中島勝正講師による 3 回講座。講座申込み 31 名、受講者 29 名、1 回目 26 名・2 回目 25 名・3 回目 23 名の参加で実施。1・2 回目の座学で、正子と次郎の出会い、正子・次郎の活躍、青山二郎との出会いなどを学び、知識を深めて 3 回目の現地学習として旧白洲邸「武相荘」を訪ねました。武相荘とは、武蔵と相模の境にあった地に因んで次郎独自の一捻りしたいという気持ちから無愛相をかけて名づけられ、記念館として公開されています。部屋にはこだわりの生活を楽しんでいる状況が展示されていましたが、正子は次郎が亡くなってから一度は諦めたふすまの裏・表を逆にして好みの部屋にして 88 歳の天寿を全うするまで武相荘で暮らしていました。入口の樹齢百数十年の柿の木が見守る庭は自然いっぱいの散策できる山のようで、ひときわ癒される空間だったように思いました。

次郎はイギリスで青春を過ごしたことが生涯を支える理念となり、信じた原則は忠実で田舎暮らしこそ生きる美学だったと、正子と共にそれぞれの美学にいそしみ生活を楽しんでいた様子を受け止めることができた素敵な空間でした。時には頑固に、時にはユーモアであふれた2人の生活のこだわりとして、受講者の「心の教養が深められた」というお話は開催者としても嬉しく思いました。また受講者からは、「違った視点から話が聞けた」「人物を通して社会背景が見えて面白い」「興味を持たせてくれて良かった」「講師が区民の方で身近に感じた」という声がありました。　　（田中桂子）

平成24年度第3ステージ　区民大学塾開催案内

講座名：
今、なお、輝き続ける
「宮澤賢治」の世界

講　師：赤田秀子　氏
（元・宮澤賢治学会理事、宮澤賢治研究会事務局長）

開催日時：1月12日（土）、19日（土）、26日（土）　　14:00～16:00
開催場所：新田地域学習センター　　学習室

未曾有の大災害に襲われたこの国の再生復興が、いま、問われている。災害直後、「雨ニモマケズ、風ニモマケズ・・・」が世界各地で朗読され、被災地での勇気と元気の源となった。
それはなぜか。賢治文学の底力、その魅力と本質を改めて考える。

上記講座が開催されます。会員の皆さん、協力し成功させましょう。**大学塾講座運営スタッフへの参加をお待ちします。**申込先：電話・FAX　03-5813-3759（平日午後1時～5時）
E-Mail：（齋藤龍男）：t3436s@yahoo.co.jp　（ボランティア活動推進部）

生涯学習センター講座　運営ボランティア参加報告

NHK 主催関連文化講演会「中国王朝の至宝」

11月3日（土）午後2時より、生涯学習センター4階講堂にて開催された。講師は東京国立博物館学芸企画部長の松本伸之氏。受講者は165名、ボランティアとして、楽学の会より6名が参加した。本講演会は10月10日～12月24日に東京国立博物館平成館で開催される展覧会「中国王朝の至宝」の解説であった。同展覧会では、中国最古の王朝「夏」から「宋」の時代までの歴代王朝の多様な文化の代表的な文物を対比しながら展示されている。講師により、各時代の文物の特色を興味深く紹介された。受講者の主な感想を以下に示す。

・歴史背景に沿っての展示品の説明が良かった。見どころがよくわかった。
・分かりやすかった。展示会に行ってもっと見たいと思った。
・ボランティアの方が親切にガイドしていただきありがたく思います。等、受講者の評判も良かった。

（小林徹）

熊本県生涯学習推進センターが当会を視察

太田黒氏

日　時　平成 24 年 10 月 31 日　10 時 30 分～12 時 20 分
場　所　生涯学習センター　ワークルーム
出席者　熊本県生涯学習推進センター　社会教育主事　太田黒保宏氏
　　足立区地域文化課　河野係長、小林係長
　　楽学の会　早坂代表、小林、鹿島、金子、江川

熊本県における生涯学習振興方策および事業展開の参考とするため、アンケートおよび現地調査がおこなわれた。

熊本県では、現在、くまもと県民カレッジを開催しており、誰もが入学でき、学ぶことが出来る生涯学習システムで、主催講座・公開講座・連携講座があり、センター（すなわち県・行政）主導の生涯学習方式として実施している。

市民（区民）が運営する「楽学の会」の事業について、講座の決定・講師の選定・広報・ボランティアの参加等について質疑応答があり、県としても市民による自主的な生涯学習への取組をしていきたい、との話があった。

今年度の事業概要、実績、ホームページについても聞き取りがあり、今後の運営の参考としたいとの事であった。（江川武男）

「あだち皆援隊」が活動体験としてあだち区民大学塾に参加

11 月 10 日（土）午後 1 時から、足立区地域活動人材養成事業「あだち皆援隊」の木島泰司さんと増田晴枝さんの 2 名の方に「あだち区民大学塾講座運営と活動の実際」について活動体験していただきました。

まず会場設営体験では、二人を「白洲正子と次郎」の講座運営スタッフに紹介した後、早速講座の準備に参加してもらい、木島さんには研修室でのあだち区民大学塾の看板パネルの貼り付けを、増田さんにはスタッフと一緒に講座資料のセットと受付での配布をお願いし、あわせて各スタッフの役割を分担表に基づき説明しました。その後講座を 30 分ほど見学した後ワークルームに戻り、あだち区民大学塾の発足経緯と講座の開講までの流れについて説明し、具体的に講師探しの苦労や区内の人材を見つけて講座をつくる楽しみを、また講座進行表を使って講座開設までのチラシつくりや、資料の作成印刷のなどの準備作業をスタッフが自分の得意をいかして協力してやっていることなどを説明しました。

会員スタッフとの交流では、講座資料は文字が大きいので高齢の受講者にはよいのでは、逆にアンケートは字が小さい。講座資料の活用法の提案などもいただき、会員からも、薬膳講座の楽しい苦労話や駅シリーズの取材の面白さなど、楽しく話が弾みました。

なお、木島さんは生涯学習センターや地域学習センターで IT ボランティアをしており、増田さんも生涯学習センターでステージボランティアや地域の健康推進委員としても活動中とのことでした。（原田進）

学びのエリア再発見～「駅シリーズ」

第九回・・・竹ノ塚地域（その2　東口エリア②）

昭和の家

昭和の家　書道展

萬福寺

西光院

常楽寺

大乗院

1.昭和の家　西保木間 2-5-10：竹ノ塚駅東口徒歩 15 分　築地塀に囲まれた木造平屋建ての家がある。出迎えてくださったのは 3 代目当主の平田茂氏。この家は、初代源七氏が、昭和 14 年に建てた書院造りで、30 畳の客間・玄関脇にはしゃれた洋室など、まさに昭和の雰囲気を残した家である。３代にわたって住まわれ 73 年の年月を経ている。当主の茂氏は東日本の大震災を機に「人との絆」の大切さを知り、この建物を「地域の交流の場」として提供しようと決心したという。「昭和の家で楽しむお花見会」をはじめ、夏は、「怪談牡丹灯篭」「アフタヌーン・コンサート」「書道展」など、交流の場として開放している。１２月には、「宮澤賢治の朗読・セロ弾きのゴーシュ」セロの演奏の計画もある。そして、「あだち区民大学塾」の「宮澤賢治講座」もご夫妻で受講者として出席してくださったという。室内の調度品も昭和の香りがする。障子の桟など「チリ落し」という独特の造りである。また、見事な組子の窓障子など、見るべきものは多い。その一方で昭和の建築を継いでいる職人探しのご苦労もあることを伺った。今後もギャラリーとして開放するとともに，交流イベントも続けていきたいとのことである。この足立の地に文化の香りのする「昭和の家」を維持しながら、開放したいという志の高さに敬服し、快く応対してくださったことに感謝して平田邸を辞した。

文明十年、貞治六年の板碑

史跡豪族河内家の墓

谷古宇家（竹塚東子）の墓

２.古刹　竹の塚一丁目に真言宗豊山派の古刹三寺が集まっている。突然の訪問にも関わらず夫々に親切丁寧な応対と由縁を語って戴き、尚且つ貴重な秘蔵品の数々も見学させて戴いた。先ず**萬福寺**は竹嶋小学校跡とある。明治 4 年 8 月武者平治朗が寛林堂として開塾後明治 9 年公立竹嶋小学校となり同 12 年正矯小学校に改名。荒綾八十八ケ所 46 番札所の石碑がある。（荒綾八十八ケ所とは荒川、綾瀬川と弘法大師縁の寺院で四国八十八ケ所に模して開創されたもの）また、室町時代中期文明 10（1478）年の板碑がある。次に**西光院**は開基・河内与平兵衛とある。河内家は渕江領竹塚村で戦国時代に千葉氏に従った武家で後に徳川家の旗本となった。江戸初期河内知親の子の時代旗本と名主に分かれたという。旗本与兵衛は 10 代、分家も三つ創出して明治に至り、喜右衛門は名主となった。名主 13 代目武胤は家塾を開き明治を迎えた。墓所中央に河内家累代の墓域がある。**常楽寺**は河内与平兵衛が中興し俳人・風流人と知られる竹塚東子の墓所がある。竹塚東子は実名・谷古宇四郎左衛門、寛政・享和・文化時代に活躍。荒綾八十八ヶ所 20 番札所である。

3.大乗院　竹ノ塚東口徒歩 20 分程の所にある大乗院は新義真言宗、古谷野山大乗寺寶持寺と称し、平安時代の創建と伝承されている。文明・文化と二度の火災で諸堂宇を焼失しましたが、本尊聖観世音菩薩立像と薬師如来立像は災いを免れ、「風土記稿」では千手観音となっているという。大乗院にある文化財としては、藁灰を奉書紙に詰めて目鼻にし、持ち寄った藁で 6～7ｍもの大蛇を編み上げ、大イチョウの木の枝に乗せるという、五穀豊穣、無病息災を祈願する珍しい伝統行事「じんがんなわ祭」が毎年 1 月に行われ、干葉粥がふるまわれるという。

水神橋

4.水神橋　足立区西保木間国道４号線最北端（埼玉県堺）毛長川に架かる橋、旧日光街道との分岐点近くに公園があり、昔この辺は大きな沼地、釣り人が大蛇を殺し屋敷の主としていた忠兵衛が祠を建てて供養、水神宮には天保 12 年に建立された鳥居がある。

（安藤、神戸、今野、田中桂、佐久間）

水神宮

みんなの広　場

みんなの広場は、会員の憩いの場です。毎号スペースを設けます。
自由気軽に、趣味、生活の知恵、心に残った言葉などを寄稿してください。
☆送付先は下記の相馬までお送りください。(300字～500字以内)
FAX.03－3889－8202　E-mail: yoshi.soma@viola.ocn.ne.jp

尾瀬を歩いて

ミズバショウ、ザゼンソウの頃をすぎ、七月の尾瀬はニッコウキスゲの花が競いあって美しい景色です。夏休みも近く、行き交う木道はハイカーで賑わっています。鳩待峠からは、車は入れず山小屋までは山道を歩きます。山小屋のお風呂では、石鹸、シャンプーは使えません。大自然の景色は、こうして守られています。

翌朝は雨になり、湿原を目の前にしてのスタートでしたが、途中からはお日さまがのぞく初夏の日差しとなりました。５７キロの木道は、国、地方自治体の長年の保護があると聞きながら、枯れ葉一葉、枯れ枝一本拾う事は禁じられているとのことでした。

熊よけに鐘をたたきながら歩き、「今朝熊が通った跡です」との説明に、自然と動物、野鳥との共存に共感しつつ、緊急時には、携帯の電波が届く場所が指定されているとのこと、現代との違和感もあります。

足を踏みはずしそうな木道を、玉の汗を流し、山ほどの荷物を背負い、黙々と山小屋に向かう若者に出会い「有難うございます」と声をかけ、道をゆずり通りすぎる後姿を見送りながら、テレビの映像で見た歩荷（ボッカ）さんとの出会いに感謝の気持ちで一杯でした。

尾瀬の大自然、広大な湿原の保護に多くの人々の配慮と努力があっての事と知り、地球温暖化の今日、自然の大切さ、役割を考えさせられる尾瀬の旅となりました。　（山口浩子）

最近読んだ本

今年３月古本屋で購入した渡辺淳一著の本「鈍感力」が興味深く読めたので紹介します。

第１章「ある才能の喪失」にそれぞれの世界で、それなりの成功を収めた人々は、才能はもちろん、その底に、必ずいい意味での鈍感力を秘めているものです。鈍感、それは人が持つ本来の才能を大きく育み、花咲かせる、力です。と述べ、一般に「鋭い」が「鈍い」より優れていると思われている傾向に反論しています。

人間の五感が鋭すぎる事はマイナス、鈍い人のほうが器官を消耗することもなく、よりのんびりと大らかに長生きできる。鈍感力をもった人の自律神経は血管に若々しく働きかけ血液をサラサラにしている。

精神的な面における鈍さについて、平均的なサラリーマンを例にとり、ある日、仕事上のミスを犯し、上司から皆の前でこっぴどく叱られて、周りの「鋭い？」仲間たちが彼の立ち上がりを心配したが、翌日彼はそんな事を全く忘れたように出勤し「お早う」と元気に挨拶して仕事に取り掛かった。彼なら、何事があっても逞しく生き抜き、将来、会社の幹部にもなり得ると「鈍感力」を奨励する。

私は、今、楽学の会に所属し、少々ハードと感じる仕事をこなしています。若い頃に比べて体力・知力・気力が衰え、能力の限界を感じて滅入る事が間々あります。“楽”から身を引きたいなと思う事もしばしばです。

そんな折に偶然見つけた本「鈍感力」は私の生き方に一つの道標を示してくれました。

（鹿島健一）

たちかわ市民交流大学5周年イベントへ参加して（11/17）

“市民力で創る生涯学習”をテーマに、開講５年を振り返りながら、コーディネーター・福留強氏（聖徳大学生涯学習研究所所長）と子育て世代、女性団体、生涯学習市民リーダーの会など多彩な分野のパネリスト５名で、これからの市民交流大学についてディスカッションがなされました。会場からの提案を取り込むことで、市民の願いや思いが共有されました。“学ぶ”ことで人間は変わることができる。学ぶことは生きること、という活動を継続するための大切なキーワードが根底にあることも意味深く、参加者の心を捉えたように思います。他に直木賞作家・志茂田景樹氏の講演や絵本の読み聞かせの実演、オープニングの若さ溢れる“絆”和太鼓の演奏など、楽しさも表現された会場は拍手に包まれました。

（早坂津夜子）

船橋市海老ケ作公民館まつりへ出席して

10 月 20 日早坂代表と海老ケ作公民館まつりに出向きました。まつりには各サークル、クラブ等が参加され、舞台公演や作品展示がされておりました。フラメンコサークルでは、華やかな衣装を身に着け、踊る姿は皆さん若々しく楽しそうでした。絵画、書道、陶芸、写真等、展示室から廊下に沢山展示されておりました。

【特別講演】

仏像研究家：松井俊明氏による「心の癒しと御仏たち」の講演では、1.「平清盛と厳島神社」、清盛は何故厳島神社を造営したのか？2.「空海の四国遍路」3.「阿修羅の秘密」4.「観音巡りへのいざない」5.「平城京遷都 1300 年奈良の御仏たち」の題材は先生が歩いて映像を交えたわかりやすい解説で、大変楽しく話を聞くことができました。私は、厳島神社の鳥居の向こうに見える山々が観音様に見える事で心の癒しになるのだなと感じました。（大藤久子）

１０月　月例会報告　「第２ステージ講座の振返り」と「１０周年記念事業の進捗状況報告」

１０月の月例会は、３０日（火）午後６時から研修室４で開催。出席者は２１名であった。　最初に、早坂代表から挨拶と報告があり、次に、第２ステージの各講座を振返り発表があった。「あいうえお論語（鹿島健一）」「宇宙の話（福田哲郎）」「やさしい薬膳（岡田スミ子）」「特別講演会・櫻井亜木子（安藤寿）」。発表終了後、活発な意見交換が行われた。次に、「１０周年記念事業の進捗状況報告」が小林実行委員長から、記念事業は、①基調講演・パネルディスカッション　②祝賀会　③記念誌編纂の３本立てで実施する。①②は平成２５年３月１７日（日）実施。③は平成２５年５月発行。①は「あだち区民大学塾特別講演会」として、生涯学習センター、足立区の共催により行うと報告された。報告を受け活発な意見交換が行われ、実行委員会を早急に開催し、詳細の決定を行うこととなった。８時４分拍手で閉会。（ボランティア活動推進部）

NPO法人設立１０周年記念事業　会員全員参加で成功させましょう

楽学の会は平成２５年にＮＰＯ法人設立１０周年を迎え、これを機に記念事業を実施します。

記念事業の内容：

◆足立区制８０周年記念事業「あだち区民大学塾特別講演会」として開催

主　　催：NPO 法人あだち学習支援ボランティア「楽学の会」
共　　催：足立区生涯学習センター・足立区
会　　場：足立区生涯学習センター　4 階　講堂
開催日時：平成 25 年 3 月 17 日（日）　午後 1 時 30 分～4 時 15 分
テ　ー　マ：あだち生涯学習ネットワークフォーラム
～学びの場を核とした地域の絆づくり～
第１部　基調講演　　第２部　パネルデスカッション

◆ＮＰＯ法人楽学の会　設立１０周年記念祝賀会

主　　催：NPO 法人あだち学習支援ボランティア「楽学の会」
会　　場：足立区生涯学習センター　７階　さくら
開催日時：平成 25 年 3 月 17 日（日）　午後 5 時～情報交流会を行う。

◆記念誌の編纂

発行は平成 25 年 5 月（予定）
楽学の会の１０年のあゆみ、活動状況、祝辞、会員の声等

チラシ案

運営委員会だより

平成 24 年 11 月の運営委員会は 1 日（月）に開催された。議事録を基に報告する。

議　事

1．早坂代表理事の報告及び提案

1）熊本県生涯学習推進センター担当社会教育主事･太田黒保宏氏来局 10/31
事前アンケート調査及び今年度事業概要等の聞き取り調査実施。
対応者：地域文化課　河野係長、小林係長
楽学の会：早坂、江川、鹿島、金子、小林
熊本県関連資料を回覧

2）（有）アリア依頼の足立区地域活動人材養成講座　「皆援隊」の一日体験受け入れ
実施日：11 月 10 日（土）

2．情報交換

1）「あだちサークルフェア 2012」10/13, 14
①ブース訪問者で、住所・氏名・Tel を登録頂いた 11 名に､会への参加案内を送る。（ボラ活部・事務局で実施）
②３１団体参加。反省会には１５団体が出席。当会は来年度の実行委員になる。

2）「あだち皆援隊養成講座」一日体験
11/10（土）　13:00～16:10
増田晴枝氏・木島泰司氏が参加
対応者：原田･大藤･市川（道）･田中（桂）
講座｢白洲正子｣で実務･実習。その後､｢会｣「大学塾」についてレクチャーする予定

3．１０周年記念事業

11/4 平沢教授と打合せ：早坂、小林、安田
11/6　16：00～　実行委員会を開催する。

4．24 年度前期中間報告　各部局長より報告

5．その他

1）ニュースに掲載した“学びの場 再発見！”、および学びのエリア再発見｢駅シリーズ｣（現在掲載中）は刊行物として刊行してもらいたいとの希望が会員よりあった。

2）第 2 回受託事業｢子どもの心と身の信号を見分ける子育て｣が 10/17 終了、受託費の請求済

3）「うんちく!大江戸入門講座」11/10 現地学習は行事保険に加入する。｢白洲正子と次郎その生涯｣11/24 武相荘での現地学習で行事保険に加入するか、否かを討議したが、鶴川駅集合、かつ北口から徒歩 800ｍを考慮し、加入する。（講座担当者により現地調査を行う）

4）楽学ニュースの印刷部数
事務局で毎月発送等に必要な部数は約 90 部（会員･顧問・賛助会員・後援会員・学習センター･支援センター･地域文化課・その他）で、余裕をみて基本は毎月 120 部印刷する。別途、打合せ・会議等で必要な部数は、前もって広報部へ連絡し、プラスする。

（事務局）

生涯学習センター ボランティア情報

今月の生涯学習センター講座運営ボランティア募集はありません。（ボランティア活動推進部）

生涯学習センター講座情報

◎講座名：『落語から学ぶ江戸文化』

① 開催日： 1 月 16 日（水）午前 10 時～11 時半
② 場　所： 研修室 1
③ 受講料： 600 円
④ 内　容： 落語を通してその面白さや魅力にふれるとともに、江戸時代の庶民の衣食住といった暮らしぶりを紹介します。
⑤ 講　師： 三遊亭京楽師匠

◎講座名：社会人のための「書育」のススメ

① 開催日： 1 月 15 日（火）～18 日（金）
全 4 回　午後 7 時～9 時
② 場　所： 研修室 5
③ 受講料： 2,400 円＋100 円（教材費）
④ 内　容： 「書く」の基本に立ち返り、書くことの重要性と字を今より上達していただくための講座で、講義と実践を行います。
⑤ 講　師： 西水晃氏

申し込みは、生涯学習センターへ
電話（03－5813－3730）または直接窓口

新会員　阿部康則さん 入会の動機、抱負

初めまして阿部康則と申します。入会動機は、ボランティア養成セミナー 6/6～7/18 日に参加した時です。セミナー初日、先に入会の（先輩）加藤さんから、会の特徴・素晴らしさを説いて、入会を勧めていただきました。養成セミナーの最終日（7/18 日）までに入会を決めようと直感しました。理由は、自ら動いて多様な学習支援活動を行い、市民と自分のために、学びあう場と絆づくりの場の提供が可能だからです。皆さん、宜しくお願いいたします。　（阿部康則）

１２月　月例会は休会です

（ボランティア活動推進部）

楽学インフォメーション ★会合のお知らせ★

○運営委員会
12月 3日（月）　午後3時～5時　研修室4

○月例会
休会

○学習支援部
12月11日（火）　午後2時～4時　ワークルーム

○ボランティア活動推進部
12月11日（火）　午後2時～4時　ワークルーム

○広報部
12月6 日（木）　午後2時～4時　ワークルーム
12月21日（金）　午後2時～4時　ワークルーム
12月26日（水）　午後2時～4時　ワークルーム

○事務局
12月11日（火）午後2時半～4時半　ワークルーム
12月27日（木）午後2時半～4時半　ワークルーム
（ニュース発送）

○大学塾講座検討会議
12月12日（水）　午後3時～5時　ワークルーム

○大学塾講座企画会議
12月 3日（月）　午後1時半～3時　研修室4

○ホームページ企画会議
12月は月末の更新作業とします。

★お問い合わせ＆ご意見等

○「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局　江川武男　電話 ：03-3898-1542
E-Mail：takeo-wg@cj9.so-net.ne.jp

○「ホームページ」に関するお問合せ
広報部　田中国弘　電話：03-3856-9290
E-Mail：ku-tanaka@asahi.email.ne.jp

メルマガ・ホームページからのお知らせ

・新しいHPアドレスhttp://gakugaku.main.jp/への切り替えは順調に進みました。皆さまのご協力を感謝いたします。
・ＨＰのアップは12月1日に行います。ご期待ください。
・メルマガは12月1日の配信予定です。

編集後記

早いもので今年も 11 月の下旬、忙しい師走の足音が聞こえて来ます。「今年の冬は暖冬」との予報が訂正され「平年並みか寒い冬になる」ようです。皆さま風邪にご用心ください。連載中の 「学びの場 再発見！駅シリーズ」は約１年半掛かって千住地区・梅島地区・竹ノ塚地区を終え、次は区の東部地域に取り掛かります。地域の情報をお寄せください。そして取材への参加をお願いします。
（神戸明）